

発刊にあたって



根室農業改良普及センター
所長 田中義春

根室管内における農畜産物販売の大部分は生乳で占め、計画乳量を生産することは農業者の所得確保と地域活性化の源でもあります。平成 24 年度管内生産目標は 828 千 t で対前年比 102.7 %、金額に換算しますとプラス 17 億円にも達します。

普及センターでは生乳生産予測を毎月の実績とシミュレーションをホームページで公開しています。本年度は他管内よりはるかに乳量を伸ばしていますが、計画生産目標を達成することは難しい状況にあります。

生乳生産を制限したり、労働時間を増やしている最大の要因は、分娩直後のトラブルと繁殖悪化です。管内の淘汰率は経産牛に対して 25 %ですが、分娩 30 日以内が 3%、90 日以内が 7 %にも及びます。分娩間隔は 1996 年の 409 日に対し 2011 年は 430 日で、15 年間に 21 日間延びています。

これは乳牛本来の行動を妨げていることが大きな要因と考えられ、牛の安楽性を高めると同時に飼養管理技術向上が求められています。乳牛の遺伝的改良は飛躍的に進み代謝量が大きくなり大量の熱と水分を発生するので、以前より栄養と水と酸素を必要としています。

自然な姿で休息・採食・飲水・反芻と、スムーズな動きで座り込む・立ち上がる・歩くという行動が重要です。牛にストレスをかけない快適な環境を追求した牛舎や改造は、疾病や繁殖だけでなく乳生産にも良い方向へ導きます。

今回は地域の事例を含めて現場の酪農家が改善可能な事項として、写真を多く使って解りやすくまとめてみました。是非、この冊子を活用して健康な牛で長寿連産、且つ生産性の向上を目指して欲しいと願っています。